

# 「浴室とアロワナ」

—2 稿—

2023/9/12

雨森 れに

〈人物表〉

丹羽 香純	(24)	式次商事の会社員。外面は優等生タイプ。
戸高 真一	(28)	香純の恋人で会社の先輩。昇進欲が強い。
池田 ゆみ	(32)	香純の同僚

〈ログライン〉

戸高と結婚目前の香純が裏で同僚をいじめているのがバレて**全て失う**。

〈ねらい〉

恋人やペットに向ける優しさを他にも向けるべきと思わせる。  
流れとアロワナをリンクさせる。

1. 水族館・野外展示コーナー（昼）

アロワナの水槽前に人ばかり。

手を繋ぐ丹羽香純（24）と戸高真一（28）が立ち止まる。

香純 「アレなんだと思う？」

戸高 「知らね。こちらへんパツとしない魚ばつかじやん。次行こ、次」

戸高、香純を引っ張って順路を進む。

後ろから走ってきた飼育員が香純にぶつかる。

香純 「いたっ」

飼育員は気付かず、人だかりの中に入っていく。

下を向いて怒りの表情を浮かべる香純。

戸高 「なんだあいつ」

香純 「ちよつとびっくりしたね」

香純、顔をあげて困ったように微笑む。

戸高 「あれは客への態度じゃないっしょ」

香純 「飼育員さんは魚ファーストなんだよ。それより次行こう？」

香純、戸高の腕に甘えるように抱き着く。

腕を組んだまま歩き出す戸高と香純。

男性 「さっき魚が飛び出したんだって」

女性 「アロワナ、だっけ？ 注意書きにも書いてあったもんね」

通り過ぎる男女を見る香純。

香純 「アロワナってさ、飛び出すんだよね。うちでも飼ってるからわかるな」

戸高 「リビングのデツカイ魚？ そんなヤバイやつだったんだ」

香純 「もう。うちはちゃんと蓋してるから大丈夫なの」

戸高 「でも、そんな魚飼ってるなんてさあ。正直ひくわー」

香純、一瞬真顔になる。笑顔に戻しながら、

香純 「真一さんと結婚するときは連れて行かないよっ」

戸高 「（にやついて）俺、人も犬つばいのが好きじゃん。飼う

なら犬にしようよ」

香純、嬉しそうに頷く。

## 2. 丹羽宅・リビング（夜）

電気の消えたりリビング。壁沿いに1メートルほどの大きな水槽があり、専用の照明が点いている。中には淡い金色のアロワナ。

パジャマ姿の香純がタッパーを持って近づく。

香純 「ルウちゃん、餌だよー」

水槽の蓋（金網）のロックに手をかける。

金具が緩んでいるのに気づき、顔を近づける。

水音。

香純 「あ、ごめんごめん」

香純、水槽の蓋を開ける。

タッパーから素手でピンクマウスを水槽に落とす。

ニヤニヤと笑いながら様子を見守る。

## 3. 式次商事・給湯室（朝）

2人ほどしか入れないぐらいの狭い給湯室。

香純がインスタント珈琲を淹れている。

戸高 「（後ろから耳元で）おはよ」

香純 「ひっ……なんだ真一さんかあ」

戸高 「会社では戸高先輩な。今日、社長来るって」

香純 「あ、ちょうどよかったあ。これからいろいろ片付けよう  
と  
思  
っ  
て  
た  
ん  
だ  
よ  
ね」

香純、作業台に置いてあった汚れた台ふきを手に取る。

戸高、香純の顔を覗き込んで、

戸高 「社長、お前の事、絶対気に入ってるからさあ。頼むよ」

香純 「そっか。もうすぐ人事評価だもんね。まかせて」

戸高 「じゃ、また連絡する」

戸高、立ち去る。

香純は台ふきを濡らし、絞った水を珈琲の中に入れる。

## 4. 式次商事・資料室（朝）

壁に「飲食禁止」の張り紙。狭い通路に池田ゆみ（

32) が正座している。

香純、ゆみにマグカップを突き付けて、

香純 「ほら、早く飲まなきや。珈琲持ち込んだのバレちゃうよ」

ゆみ 「私のじゃ……」

香純 「何言ってるの？ じゃあここで溢そうか？」

香純がマグカップを傾ける。

香純 「今日の資料室当番、ゆみさんだよ。で、今の時間、私

は買い出して外出中なの」

マグカップから珈琲がこぼれそうになる。

香純 「この鍵はゆみさんが持つてるし、他に誰も来ない。ね

え、意味わかる？」

ゆみ、慌ててマグカップを両手で押さえる。

ゆみ 「飲む。飲むから……」

珈琲を飲み干す。

香純 「台ふきの絞り汁入り、おいしい？」

ゆみ、悔しそうな表情で涙を浮かべる。

香純 「弱いってそれだけで可哀想だよ」

香純、ニヤニヤと笑う。

ゆみ 「なんで。こんな酷いこと、するの？」

香純 「……うちね。アロワナ飼ってるんだけど。肉食だからネ

ズミ食べるんだあ。それ見ると癒されるんだよねえ」

## 5. 式次商事・ビル出入口（夜）

エレベーターから出てくる社長。

物陰に隠れていたゆみが、社長に声をかける。

## 6. 丹羽宅・風呂場（夜）

湯船に浸かる香純。

ウエディングドレスのカタログを眺めている。

## 7. 丹羽宅・リビング（夜）

頭にタオルを巻いたパジャマ姿の香純。

アロワナにピンクマウスの餌をやる。

後ろから母親が声をかける。

母親 「香純、ルウの金網ゆるんでるの知ってる？」

香純 「うん。土日どっちかで新しい金具買ってくるね」

母親 「土日はドレス見に行くんじゃないやなかったっけ？」

香純 「大体決まってるもん。ルウみたいな薄い金色でシユツとしたやつにするんだあ」

母親 「真一さんルウ嫌いなんですよ。そんなのやめなさいよ」

香純 「うまいこと言うし。なんならルウを連れていく段取りも考えてあるから。大丈夫大丈夫。って……お母さん見てよ」

水槽を指差す香純。

母親 「やだ、食べ残し？ 初めてじゃない？ 具合悪いとか？

明日から旅行なのに、困るんだけど」

香純、不安そうに水槽を見つめる。

## 8. 式次商事・給湯室（朝）

戸高 「昨日、俺の事話せた？」

香純 「片付けしたら、一人で頑張ってるねってランチ誘ってもらってね。そこでちょっと話せた」

戸高 「お、さすが。気が利くまじめな奴、社長すきだもんなあ」

ゆみ、給湯室を覗きながら、

ゆみ 「丹羽さん、いる？ 社長が呼んでるよ」

香純、戸高、顔を見合わせて嬉しそうな表情。

## 9. 式次商事・会議室（朝）

社長 険しい顔の社長。香純は机を挟んで向き合って座っている。机の上には閉じたパソコンと伏せた書類。

社長 「本来なら人事や君の上司も呼ぶところなんだけど。私が直接確認したくてね」

香純 「何かありましたか」

社長 「丹羽くんさ、池田さんに辛く当たったことはないかな」

香純 「えっと。この前飲食禁止のところで珈琲持ち込んでたんで、それは注意しました」

社長 「本当にその認識で間違いない？」

社長、パソコンを指で叩く。

社長 「セキュリティ強化で先週からカメラついてたの、知ってるかな」

## 10. 丹羽宅・リビング（夜）

水槽の光のみで薄暗い。テーブルの上にウエディング雑誌が数冊重ねられている。  
泣いて化粧が崩れた香純が慌ただしく帰宅する。  
雑誌を見つけ、乱暴に投げる。  
全て投げおえ、荒い息の香純。  
蓋が落ちていることに気が付く。  
急いで部屋の照明を点ける。  
床に動かないアロワナ。  
駆け寄り、アロワナを抱きしめる。

## 11. 丹羽宅・風呂場（夜）

湯船に浸かる香純。  
涙が出て、止まらなくなる。  
声をあげて泣き始める。

## 12. 丹羽宅・リビング（朝）

寝ていない様子の香純が椅子に座っている。  
旅行帰りの母親が慌ただしく部屋に入ってくる。  
母親 「香純、戸高さんと別れたってほんとなの」  
香純 「……仕事も、やめる」  
母親 「ちゃんとワケを教えなさいよ。結納金も貰ってるのに、困るんだけど」  
香純 「もうぜんぶ、どうでもいい」  
香純、水槽に向かい、抱きしめる。  
中には死んだアロワナが浮いている。

おわり